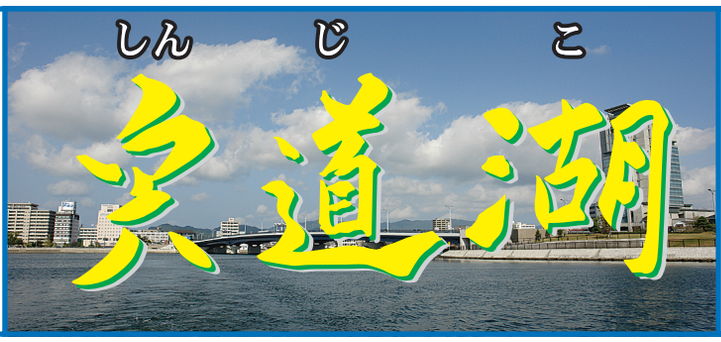
平成28年４月　第166号

国立病院機構の
シンボルマーク



独立行政法人国立病院機構
松江医療センター
呼吸器病センター
〒690-8556
松江市上乃木５丁目８－31
TEL(0852)21-6131 FAX(0852)27-1019
URL http://www.mmedc.jp/
発行責任者
院　長　中島健二
編集者
事務部長　上甲尚史

松江医療センターと満開の桜

平成27年４月にグランドオープンした松江医療センターと満開の桜です。心機一転、初心忘るべからずとの意味で掲載させていただきました。また、今年度も平成28年度新規採用者を満開の桜の中で記念撮影をしたいと考えております。

もくじ

新院長就任あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
教育研修部から「ルーティンクエスト」の問い ・・・・ 3
平成27年度中四国グループ内言語聴覚士スキルアップ研修に参加して ・・ 4
中国四国グループ内臨床検査技師実習技能研修検体（分析）部門に参加して ・・ 4
ＱＣ手法研修に参加して ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
在宅推進セミナーを通して学んだこと ・・・・・・・・ 4～5
クリスマスコンサートを開催しました ・・・・・・・・・・・・ 5
還暦を祝う会を行いました ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
防火避難訓練・防災訓練を実施して ・・・・・・・・・・・・・・ 6
島根県心身障害児（者）親の会連合会にて感謝状贈呈を受けました。・・ 6
「エキスパートナース」３月号に載りました！ ・・・・ 7
看護師長の白衣の変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
がんサロンについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
しじみ会（十二月冬号、一月新春号、二月立春号）・・・・ 7
各診療科・各部門職場紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
人事異動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
新人医師紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
開業医紹介コーナー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
地域医療連携室だより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
外来診療表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

基本理念　私たちは、真心 と 思いやり をもって良質な医療を提供します。

就任のご挨拶

院長　中島健二（なかしま けんじ）

４月１日付けで赴任しました、中島健二です。大役を仰せつかり、その責任の大きさに身の引き締まる思いです。代々の院長・副院長、事務部長、看護部長を始め職員の方々や関係者の皆さまが築いてこられた歴史を踏まえ、病院のさらなる発展と地域の医療充実に向けて、全力を尽くしていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

最初に自己紹介をさせて頂きます。昭和52年に鳥取大学医学部を卒業した後、鳥取大学脳神経内科に進み、臨床神経内科学を専攻しました。脳卒中などの神経救急医療にも取り組み、急性期・回復期・維持期の連携など、脳卒中・リハビリテーションの地域連携も進めました。一方、全国的な研究班活動にも参加し、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病などの神経変性疾患を対象とした政策研究班である難治性疾患等政策研究事業「神経変性疾患領域における基盤的調査研究」班も担当してきました。鳥取県では、県からの委託事業である難病医療連絡協議会や難病相談支援センターの事業も実施してきました。また、認知症などの頻度の多い神経疾患の医療にも取り組み、日本神経学会が中心になって他の認知症関連５学会と共に行った。認知症疾患治療ガイドラインの作成には委員長として参画し、現在、その改訂作業を進めているところです。認知症の地域的な取り組みも進め、鳥取県からの委託事業である基幹型認知症疾患医療センターを立ち上げて取り組んできました。

松江医療センターについてはまだ理解できていないことも多く、関係の皆さんからいろいろと教えて頂きながら検討を進めていきたいと考えております。皆さんのご指導・ご協力を得て病院全体についての理解を深めながら改めて課題などを検討し、院内外の各部門や関係者の皆さんと協議・協力しながら進めて行く必要があると思っています。そういった段階でもあるところから、病院のことを述べるのはまだ早いようにも思いますが、折角の機会でもありますので、申しあげさせて頂きます。

松江医療センターは政策医療と地域医療への取り組みが特徴であろうと思われます。肺癌、肺気腫、結核を含めた感染症などの呼吸器疾患や神経難病、筋ジストロフィー、重症心身障害といった政策医療と共に、地域医療にも取り組んでいます。当院には高度な診断・治療機器が整備されており、それらを活用して政策医療や地域医療を一層推進して行く必要があると思います。また、これまでもこれらの呼吸器疾患や神経難病などに関する研修会なども積極的に開催されてきており、教育活動や市民公開講座なども一層進めて行きたいと考えます。

呼吸器疾患の重要性は年々増してきており、肺感染症や閉塞性肺疾患、肺癌などの医療も注目されています。当院では肺癌を含めた呼吸器疾患の診断から治療（薬物治療、手術・放射線治療など）まで総合的な診療の取り組みが進められ、「呼吸器病センター」として整備されてきています。今後も呼吸器診療は当院の大きな柱として積極的に取り組んでいく必要があると考えています。

一方、神経難病医療も担っており、島根県難病医療ネットワーク事業の拠点病院（神経難病）に指定され、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病医療にも取り組んでいきます。地域医療としての貢献についても一層努め、高齢の方に多くみられる認知症などを含めた種々の神経疾患の診療も進めたいと思っています。また、筋ジストロフィーや重症心身障がい児（者）の医療にも取り組んでいきます。

関連医療機関や介護・福祉施設との地域での連携や在宅療養支援も積極的に進めていくと共に研修や教育、臨床研究などへの取り組みも進め、職員がより働きやすい勤務環境確保の整備にも努め、全職員が協力し合って力を合わせ、地域から信頼される病院であり続けるように努めていきたいと考えております。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

～教育研修コラム～

「ルーティンクエスト」の問い

教育研修部長　門　脇　　徹

問１：「ルーティンクエスト」って何だ？

2015年のラグビーワールドカップで大活躍した五郎丸選手。そのキック前の決まったあの一連の動作＝「ルーティン」。散々マスコミでも取り上げられましたので、皆さんご存知と思います。

「ルーティン」とはroutine［ru･ti･n］、すなわち決まった手順、お決まりの所作、日課などの意味の英語です。最近では、スポーツの試合で集中力を高めたりゲンを担いだりする意味合いで行われる儀式的所作を指すことも多くなっているようです。

「クエスト」と聞くと我々の世代などはすぐにドラゴンクエストというロールプレイングゲームを思い起こしてしまいますが、「クエスト」とはquest［kwest］。意味は探索・探求、物語などの冒険の旅、と定義されています。

日々の業務内で絶対に踏まなければいけないステップ。顔を洗ったり歯を磨いたりと同じレベルで欠いてはいけないステップがあるでしょう。それがいわゆる「ルーティンワーク」。今までの業務の中で培ってきた必要不可欠な行為・作業であり、〝やんなきゃいけない定常的〟なものです。だから、スポーツの場面で用いる「ルーティン」とは異なり、〝つまらない〟的意味が含まれます。ということになるとそこに思考が入らない可能性が高い。ただし、「ルーティンワーク」は身につけないといけないものであって蔑ろにはできません。

「ルーティンクエスト」は私の造語です。

「ルーティンワーク」を探求しすぎることで結果として思考が入らなくなるために〝突発的に発生する非定常的な状況〟に対応力が低くなること、そしてTOYOTAでいうところの〝カイゼン〟がなされない状況に陥ってしまい、さらに組織全体として成長が滞り硬化してしまう、というところまで意味します。

問２：自分が仕事だと思っていることが実は「ルーティンクエスト」になっていないか？

「ルーティンクエスト」ではおそらく、ワークライフバランスのワークを占める時間や労力が減るでしょう。定常的〝作業〟の職種であれば、「ルーティンクエスト」は成功するし、極めればまさに〝カイゼン〟的行為となることでしょう。確かに、その日はいい感じで終わっていくので気分はいいかもしれません。しかし、我々はそれでいいのか？と自らに問う必要があります。なぜならば医療現場で起こっている出来事はパッと見には定常的状況、と思わせられていることが、実は非定常的状況の積み重ねである、ということは少なくないからです。もちろん、正しく効率のよい医療行為は「ルーティン」として定義されてしかるべきです。しかしその前提や結果に常に非定常が付きまとう、ということを自覚しながら「ルーティンワーク」をこなしていく必要性があるのです。言い換えると「ルーティンワーク」をこなしつつも、自らが変わっていかないと何をしているのかわからない状態に陥る可能性がある、ということです。変わらないことが前提ではなく、変わることこそ大前提なのです。それでも「ルーティンクエスト」を続けていくとどうなるか？おそらく視野がかなり狭くなります。そしていつの日か、チェックボックスにチェックをすることしかしていない自分に気づくことでしょう。非定常的状況が頻発する現場においては「ルーティンクエスト」は残念ながら、プロフェッショナルの仕事とは言えません。

問３：それでは「ルーティンクエスト」からの脱却を図るには？

「ルーティンワーク」をこなすことを否定しません。
思考停止となり、「ルーティンクエスト」状態となることを私は否定しています。
そこに陥りたくない、もしくは陥っている、陥りそうなのなら…。
そこからの脱却は難しいですが、簡単です。簡単ですが、難しい、そう思います。
その行為は本当に正しいのか？
方法はこれで正しいのか？
もっといいやり方があるのではないか？…
自分が仕事だと思っていることが実は「ルーティンクエスト」になっていないか？
立ち止まること、思考を繰り返すこと、学び続けること、研究すること、問いを続けること、そしてそれに基づいて相手を尊重して話し合いを重ねてカイゼンを繰り返す「クエスト」。これがプロフェッショナルです。
問いを投げかけることは多分簡単です。
難しいのは問いを投げ続けること、学び続けること、その姿勢がブレないこと。
でも、それを続ければ、続けることができれば、ホンモノのプロフェッショナルにいつかなることができる。私はそう信じています。
最後に。
今回の教育研修部コラムは自らが立てた問いに対して、自らの「答えらしきもの」を書いてみました。「答えらしきもの」には自分の理想ともちろん自戒もこめています。
春ですね。
今年度もたくさんの新人さんを迎える時期です。
教育研修部はみなさんを常にサポートしたいと考えています。
〝ホンモノ〟の「クエスト」ができますように。

平成27年度中四国グループ内言語聴覚士スキルアップ研修に参加して

言語聴覚士　**吉　木　里　奈**

平成27年12月４～５日の２日間、国立病院機構　中四国グループで開催された言語聴覚士スキルアップ研修に参加させて頂きました。言語聴覚士のスキルアップ研修は今回が初めての開催となります。今回は、参加施設それぞれがどのような患者さんに、どのようなリハビリテーションを行っているのか、というところを中心に講義が行われました。

当院では主に呼吸器疾患、神経難病、重症心身障がい児（者）のリハビリテーションを行っていますが、脳血管疾患、発達障害、がん全般等のリハビリテーションを行っている施設もあります。それぞれが高い専門性を持ってリハビリテーションを提供されており、私ももっと専門性を高めたい！と刺激を受けて帰ってきました。

今後もこのような研修に参加させて頂き、より質の高いリハビリテーションを提供できるようにしていきたいと思います。

中国四国グループ内臨床検査技師実習技能研修検体（分析）部門に参加して

臨床検査技師　**西　村　美　香**

平成27年12月５日に岡山医療センターで行われた中国四国グループ内臨床検査技師実習技能研修Ⅱ検体（分析）部門に参加しました。検体部門の他に、生理検査部門、病理検査部門があり多くの臨床検査技師が参加していました。

今回、私が参加した検体部門では、凝固の採血量と遠心回転数の影響から始まり血液検査の現在、検体検査部門の単位の標準化、髄液検査について、精度管理に必要な統計学まで幅広く行いました。各内容と自施設の状況を確認しながら聞くことで現状と比較することができ、採血量に関しては、私たち検査技師からどのように看護師へ必要性を伝えるかが重要と再認識しました。

毎年、新人看護師研修で講師として検査科も参加させていただいていますが内容の修正も考えなければいけないと思いました。また、学生時代から苦手な統計学も難しいですが精度管理にはとても重要なのでこれから勉強をしていきたいと思います。

今後の課題は様々ですか、研修内容を少しでも生かせるように頑張りたいと思います。

ＱＣ手法研修に参加して

２階病棟　副看護師長　**桐　原　恵　理**

平成27年12月15日、国立病院機構本部でＱＣ手法研修を受けました。東京での研修は初めてで、ちゃんと行けるかどうかドキドキしながら向かいましたが、何とか無事に帰ってくることができました。

研修には、全国から様々な職種の人が参加していましたが、私のグループは看護師長・副看護師長というメンバーだったので、研修以外でもいろいろな話ができました。「うちの病棟も院内で超過勤務が一番多くて、この研修に行ってきなさいと言われた。」等、どこも同じような悩みを抱えているんだと少し安心しました。

自分がＱＣ手法についてよく理解していなかったため、ついていけるか心配でした。しかし、同じように感じている人もいて、一緒に「こうだね、ああだね。」と意見を言い合いながらグループワークを進めていきました。『使用しなくなった機器の片付けが出来ない』というテーマについてＱＣ手法を使ってまとめ、発表する事ができ、有意義な時間となりました。

ＱＣ手法については、まだ十分に自分の物にはなっていませんが、問題を解決していく「かぎ」を知ることができたので、今後実際に活用していきたいと思います。

在宅推進セミナーを通して学んだこと

４階西病棟 看護師　**山　口　芽　衣**

今回、在宅推進セミナーへ参加することで多くのことを学ぶことができたが、２点について報告する。

１点目は、グループワークを通して訪問看護を取り入れている病院や訪問診療を行っている病院が、在宅医療についてどのように取り組んでいるのか知ることができた。その中でも特に、包括ケア病棟がある病院の看護師の方の話を聞くことで、多くの学びがあった。患者のＡＤＬを維持させること、医師や他職種へ積極的に看護師が声掛けを行うことで早期から患者のゴールを決めることができていた。現在の４階西病棟では、退院が決まってから帰る先はどこか、支援してくれる家族はいるのかなど慌ててしまうことが多くある。

そのため、退院できず入院期間が延びてしまうなどといったケースもある。そのため、今回学んだ医師や他職種へ看護師が懸け橋となり、早期から患者の退院後のことについて明確にしておくことでスムーズに退院ができるように取り組んでいきたい。

２点目は、様々な講義を受けることで、今後の在宅医療の重要性について学ぶことができた。できるだけ在宅で過ごし、時々病院へ入院するというような地域包括システムを構築するためには、病院の看護師にはどのような役割が必要であるか考えることができた。例えば、在宅でNPPVを使用している患者や在宅酸素を使用している患者などが、在宅において正しい取り扱いができるように、サービスの活用方法についての説明や家族・本人への指導を十分に行うなどの取り組みをさらに進めていかなければならないと感じた。また、訪問看護師やケアマネージャーへのNPPVへの知識の伝達など(取り扱い方や洗浄方法など)を看護師という同職種で行っていくことで、より正確に在宅でNPPVを使用することができるのではないかと感じた。こうした取り組みをすることが、呼吸器疾患患者が在宅で治療を継続して行うことにつながり、在宅で過ごす時間をできるだけ延ばすことにつながるのではないかと感じた。そのため、今後は呼吸器の疾患を抱える患者の訪問看護師やケアマネージャーとコミュニケーションをとり、NPPVの勉強会を行うなど、共通の知識を持てるような取り組みを行っていきたいと感じた。

最後に、これからは患者、家族が安心して退院できるような支援を今回の学びを活かして行っていきたい。

クリスマスコンサートを開催しました

財務管理係長　**福　谷　晴　美**

去る平成27年12月22日（火）に、看護部主催によるクリスマスコンサートを開催しました。看護部のクリスマスコンサート準備担当者から演奏の依頼を頂き、看護部・臨床検査科・療育指導室・事務部と幅広い職種から、ハンドベル・フルート･クラリネット・アコースティックギター・ピアノの演奏者が集まりました。勤務時間帯がまちまちなことや、練習場所の確保もままならなかったこともあり、本番まで全員が集まって演奏する事はできませんでした。しかし、音楽という共通の言語を持ち合わせている者同士、本番ではそこそこお聞き頂ける程度になったのではないかと思っています。コンサート終了後、「良かったよ」というお声を頂戴し、一同大変喜んでおります。また次回も患者さんと共に楽しめるコンサートとなればうれしく思います。

【還暦を祝う会を行いました】

主任児童指導員　**古　川　優　一**

１月14日に１階、２階、３階病棟の患者さんを対象に還暦お祝い会を開催しました。数日前は成人の日で、各地では成人式が催されてにぎわっていましたが、当院では人生３回目の成人である還暦のお祝いをしました。

今年度の対象者は５名で、みなさん、還暦の象徴である赤いちゃんちゃんこにならい、衣装の一部に〝赤〟を身に着けて出席してくださいました。例えば呼吸器を常時つけられている方はニット帽でバッチリ決めてくださいました。よくお似合いで還暦とは思えない若々しさが感じられました。

今までは成人式と合同だったため、〝式典〟の意識が強かったようですが、今年度は趣向を変え、療育訓練室に集まって、〝会〟の内容も少し変更しました。一番の目玉としては「家族からのメッセージ」です。普段、家族で手紙を書いたり、メッセージを伝えたりする場面は少ないと思います。だからこそ、今回、お祝いの言葉としてプログラムに入れることとしました。ご家族の皆様も約60年共に生きてこられ、心温まるメッセージを伝えてくだいました。会場には涙ぐむ人もいて、還暦を迎えられたかただけでなく、会場に集まったみなさんが家族の温かみを感じることができたと思います。本当に短い時間でしたが、温かみのある場面を作り出せたことは良かったと思います。この度の還暦を祝う会には当院公認キャラクターの松丸くんも駆けつけてくれたり、みなさんで対象者の青春時代を彩る名曲を歌ったり、第２部では時代に沿ったクイズを行い、楽しい時間を過ごすことができました。

みなさんの記憶に残る会となれば、とてもうれしく思います。

防火避難訓練・防災訓練を実施して

庶務班長　**岩　井　睦　司**

消火訓練及び避難訓練については、年間二回以上実施することとなり、そのうち避難訓練は夜間に実施するよう努めることとなっております。この度、松江市南消防署の協力により、平成27年12月９日(水)13時30分から夜間を想定し、通報・非常放送・指揮・初期消火・放水・避難・はしご車訓練を実施し、訓練終了後は起震車による地震体験として災害訓練をさせていただきました。

訓練参加者は、当直医師、当直師長、事務、警備員、各階の病棟勤務者、模擬患者、宿舎入居者による応援、本部形成による幹部応援、消防設備点検業者という設定で行いました。

１階病棟倉庫の煙感知器を作動し訓練火災発生、出火階及び直上階のサイレン非常放送が鳴動し、夜勤看護師、警備員は消火器を持って初期消火、出火病棟のスタッフ・患者さんに周知、防災センターへ報告、排煙窓開放を行いました。

出火断定により松江市消防本部への緊急電話にて出動応援の依頼、全館放送にて各階の病棟勤務者は消火器を持って出火階へ応援、火の勢いが止まらないため、当直医師は避難誘導の指示を行いました。

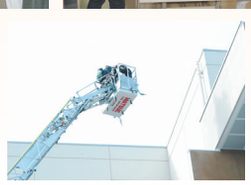
出火階病棟では慌ただしく避難誘導が始まり防火戸閉鎖による防火区画形成、応援者による的確な判断により出火階及び直上階の避難誘導を行いました。

消防隊員が到着し消火活動、一方でははしご車による救出訓練が実施され、全員無事に避難完了し鎮火により防火訓練が終了しました。

はしご車を見学に来られた院内保育所の園児たちも興味を持ち、訓練終了後に起震車による地震体験(震度６)も行いました。

火災はいつ、どこで発生するか分かりません。突然発生した際は冷静な判断が必要です。五感をフルに生かし、発生した場合は早急に初期消火、消防署への通報、患者さんの命を守り安全な場所に誘導することが大切となります。

そのためには、普段から消防設備の設置場所・使用方法の確認、患者さんの安全を考慮した避難誘導など、日頃からイメージトレーニングしておくことの重要性を再認識しました。これからも患者さんの安全確保に努めて参ります。



島根県心身障害児(者)親の会連合会にて感謝状贈呈を受けました。

小児科医長　**齋　田　泰　子**

平成28年１月17日(日)に開催されました第40回島根県心身障がい児(者)親の会連合会大会・研修会にて感謝状贈呈を受けました。親の会から当院の取り組みを評価していただけたものと思っております。

当院では私が平成18年に赴任してからこれまで、病棟での超重症児の受け入れや入院病棟の体制整備、在宅支援としてデイケア・短期入所、地域でのネットワーク会議の開催など、重症心身障がい児(者)の医療・支援体制づくりに取り組んでまいりました。これらの取り組みは、重症心身障がい児(者)を守る会島根県支部をはじめとする地域の関係機関の皆様方のご理解と、医局の先生方をはじめとする院内の多職種の関係スタッフの協力のもとに継続することができました。

この場をお借りしまして、ご理解・ご協力くださった皆様方に心より感謝申し上げます。

今後もこれらの取り組みを継続し、心身障がい児(者)の医療・支援に関する地域のニーズにこたえていけるようより一層努力して参りたいと思います。

「エキスパートナース」３月号に載りました！

教育研修部長　門　脇　　徹

〝病棟に増えているNPPV（非侵襲的陽圧換気療法）のお悩み解決！〟

先日発売された看護雑誌「エキスパートナース」３ 月号特集のタイトルです。当院呼吸ケアサポートチーム（RST）のメンバーを中心に執筆させていただきました。2013年に発足したRSTはNPPVを中心とした呼吸管理を安全・円滑に行うため活動中です。そのノウハウをこの特集にグイッと詰め込んでいます。是非手にとって読んでみてください！

看護師長の白衣の変更

平成28年４月変更

患者さん、ご家族の皆さん
そして職員の皆さん、よろ
しくお願いいたします。

肺がんサロン『つどい』

地域医療連携係長　戸　野　佳　子

肺がんサロン『つどい』は、第１金曜日14時から16時、当院外来棟２F「サロン・栄養相談室」で開催しています。対象者は外来通院中・入院中・退院後のがん患者さんとそのご家族、他の病院でがんの診断又は治療を受けた方です。サロンは「がん患者や家族が集い、がん医療やよりよく過ごすための情報交換の場です。また、患者仲間でやすらぎ、不安や孤独感を緩和する。」ことを目的としています。

昨年度は当院のがん化学療法看護認定看護師が中心になり催しを企画しました。６月の『味覚障害時の食事の工夫』には16名、７月の『七夕会』には11名と多くの方に参加していただきました。その後も７～８名の方に参加していただいています。

肺がんサロン『つどい』は、「患者・家族の情報交換」、「医療者との意見交換」を目的として平成19年３月に誕生しました。当時は月に２回の開催していました。お薬相談や栄養相談、コンサートや落語会を催したこともありました。参加者も多い時期もあったり、１名のこともあったりと、紆余曲折を経て現在に至っています。

今年度も引き続き開催してまいります。一人で悩んでいる方、ちょっと覗きにきてみませんか？先輩方のおしゃべりの中にヒントがあるかもしれません。私たち医療スタッフも微力ながら支援してまいりたいと思っております。

お問い合わせ　松江医療センター　地域医療連携室　直通　0852-24-7671

しじみ会　【十二月冬号、一月新春号、二月立春号】

リハビリテーション科　作業療法士

・冬がすみ　宍道湖覆う　しじみ船
「となりの住人」

・成人の　日の襟ただし　本を買う
「京の静さん」

・これまでの　出会い経験　糧にして
明日に輝く　次のステップ　「愛佳さん」

・雪が降り　孫たち庭で　雪合戦
「カラス貝さん」

・学生の　瞳輝く　実習に　若き戦力
立派に育て　「中ちゃん」

・大寒波　不意を突かれて　浮足立ち
「Nさん」

・ご破算で　願いましては　そのように
巡る人生　あればいいのに　「すんなびさん」

・年嵩ね　除夜の鐘打ち　背伸びして
「ふくろうさん」

・大あくび　ナースコールが　派手になる
「ふた葉さん」

・肌つるり　湿気嫌いに　なりきれず
「浜田医療センター附属看護学校 学生 天野さん」

・秋終わり　我寒空に　何想う
「浜田医療センター附属看護学校 学生 渡邊さん」

各診療科・各部門職場紹介

３階病棟

３階病棟は、重症心身障がい児(者)病棟です。

長い時間入院される患者さんが多い病棟なのでご家族が面会日や外出行事に合わせて来られた時間を大切にし、日頃の生活の様子をお伝えしたり掲示板の写真で元気で過ごされている姿や成長している姿をお知らせしたりしています。

患者さんに心地よい環境を提供できるよう看護師、療養介助職、看護助手、児童指導員、保育士がチーム一丸となって明るく元気な職場つくりを心掛けています

４階西病棟

「明るい笑顔と優しい心」をモットーに安心な入院生活をサポートします。

４階西病棟は、呼吸器一般と結核のユニット病棟です。検査入院、肺がんの化学療法や放射線治療を受ける患者さんの身体・精神・社会的な支援、呼吸不全患者さんの非侵襲的陽圧呼吸療法や在宅酸素療法などの管理を行い、退院に向けた支援を行っています。慢性呼吸器疾患看護認定看護師や呼吸療法認定士が中心となり、スタッフ一同一丸となってより良い呼吸器ケアを目指しています。

４階東病棟

４階東病棟は、ALS他、神経難病の方、呼吸器内科の方々が入院されており、難病患者一時入院支援（レスパイトケア）にも関わっています。

神経難病は患者さんにとってストレスの多い疾患ですが、インターネットやメールのやり取り、川柳の会を作り楽しい時間を過ごされています。人工呼吸器を装着されたかたも週２回のミスト入浴をされています。医師を始め、多職種と協力しながら、患者さんの生活を大切に支援させていただいています。

人事異動

発令月日	事項	職名	氏名	備考
H28.1.1	採用	呼吸器外科医長	阪口　全宏（さかぐち　まさひろ）	
H28.3.31	定年	看護部長	武海　栄	
H28.3.31	辞職	呼吸器内科医長	神田　響	
H28.3.31	辞職	呼吸器外科医師	松居　真司	
H28.3.31	辞職	小児科医師	松村　渉	
H28.3.31	定年	診療放射線技師長	妹尾　賢	
H28.3.31	辞職	看護師長	岩井　洋子	
H28.4.1	採用	院長	中島　健二（なかしま　けんじ）	鳥取大学　医学部より
H28.4.1	昇任	呼吸器内科医長	多田　光宏	呼吸器内科医師より
H28.4.1	採用	神経内科医長	深田　育代（ふかだ　やすよ）	
H28.4.1	配置換	看護部長	築森　恭子（つきもり　きょうこ）	大島青松園より
H28.4.1	配置換	診療放射線技師長	二見　智康（ふたみ　ともやす）	福山医療センターより
H28.4.1	配置換	副薬剤部長	原　太一（はら　たいち）	南岡山医療センターより
H28.4.1	配置換	副看護部長	大東　美恵（おおひがし　みえ）	山口宇部医療センターより
H28.4.1	昇任	副臨床検査技師長	西村　俊直（にしむら　としなお）	呉医療センターより
H28.4.1	昇任	看護師長	仲野　美由紀（なかの　みゆき）	米子医療センターより
H28.4.1	昇任	看護師長	古門　千代美（こもん　ちよみ）	米子医療センターより
H28.4.1	配置換	庶務班長	石原　弘志（いしはら　ひろし）	徳島病院より
H28.4.1	昇任	理学療法主任	柿丸　泰之（かきまる　やすゆき）	浜田医療センターより
H28.4.1	配置換	主任保育士	大塚　克洋（おおつか　かつひろ）	愛媛医療センターより
H28.4.1	昇任	経営企画係長	本庄　彬愛（ほんじょう　あきちか）	鳥取医療センターより
H28.4.1	配置換	副薬剤部長	濱岡　照隆	関門医療センターへ
H28.4.1	配置換	副臨床検査技師長	大西　浩	呉医療センターへ
H28.4.1	配置換	副看護部長	丸田　保恵	浜田医療センターへ
H28.4.1	配置換	看護師長	山本　純子	米子医療センターへ
H28.4.1	配置換	庶務班長	岩井　睦司	鳥取医療センターへ
H28.4.1	昇任	副看護師長	宅和　栄子	米子医療センター看護師長へ
H28.4.1	昇任	副看護師長	柳浦　京子	鳥取医療センター看護師長へ
H28.4.1	配置換	財務管理係長	福谷　晴美	鳥取医療センターへ

※役職員以上を掲載しております。

新人医師紹介

さかぐち　まさひろ
阪口　全宏

氏　名：阪口　全宏　（さかぐち　まさひろ）
診療科：呼吸器外科
経　歴：昭和60年　大阪大学医学部卒業
昭和61年　大阪労災病院外科
平成元年　国立療養所近畿中央病院
平成４年　大阪大学医学部第１外科
平成７年　テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター研究員
平成11年　国立病院呉医療センター呼吸器外科
平成14年　大阪府立呼吸器アレルギー医療センター呼吸器外科参事兼医長
平成16年　大阪警察病院呼吸器外科医長
平成17年　国立病院機構愛媛病院呼吸器外科医長
平成18年　国立病院機構近畿中央胸部疾患センター外科医長
平成26年　近畿大学医学部外科講師
専　門：呼吸器外科一般
ご挨拶：近畿中央胸部疾患センターで７年間、同じ釜の飯を食べた仲間（当科伊藤医長）の誘いにより大阪より赴任して参りました。恩師にいただいたはなむけの言葉は"今が旬"、良識と誠意を持った呼吸器外科医療を心がけ、呼吸器外科で育てていただいた25年の恩返しをしたいと存じます。何卒ご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

開業医紹介コーナー

病病・病診連携　No.14

片山内科胃腸科医院

当院は松江市立病院に勤務していた父、片山耕作が昭和54年に上乃木４丁目に開業し37年になります。私、片山俊介は平成５年に鳥取大学を卒業し、山陰各地の病院に勤務していましたが、平成25年３月に米子医療センターを退職してから現在まで父と共同で診療しております。生活習慣病を含む一般内科全般の診療が主ですが、経鼻胃内視鏡・大腸内視鏡・超音波検査も行っています。

当院は医療センターと非常に近いですし、呼吸器関連で困った時、胸部CTが必要な時によく御紹介させて頂いています。また稀にですが神経疾患でも、お世話になっております。常に丁寧に対応して頂き大変ありがたく感じています。

また私は医療センターで、非常勤で上部内視鏡・大腸内視鏡検査を担当させて頂いております。非常勤ですので出来ることは限られますが、少しでもお役に立てていましたら幸いです。

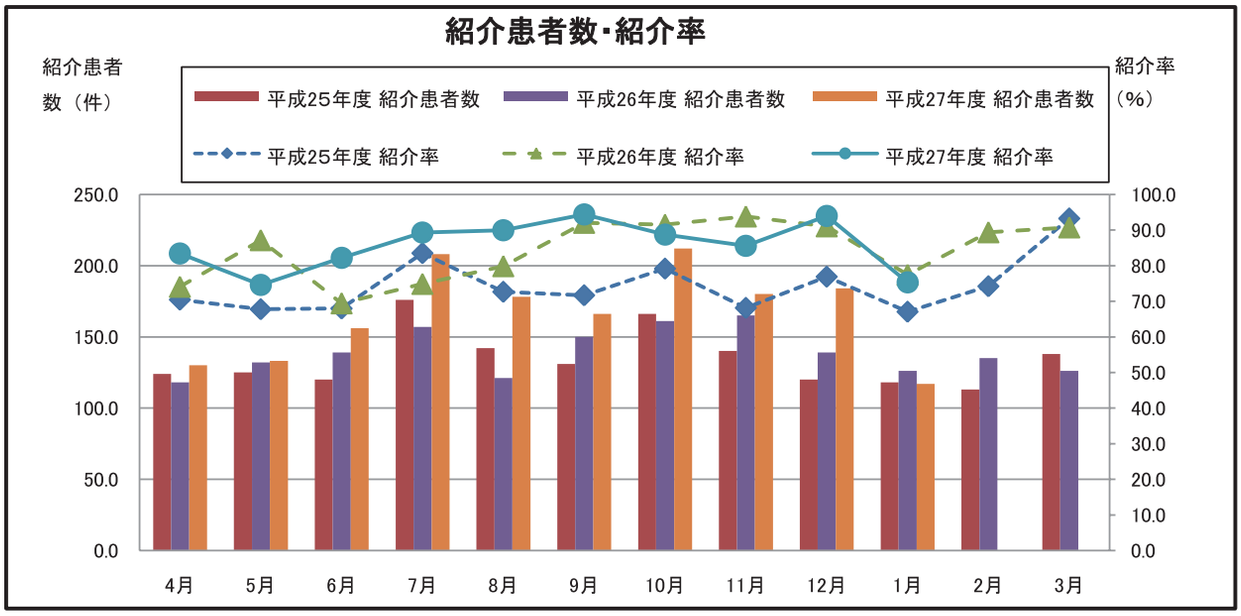
今後とも、どうか宜しく御願い申し上げます。

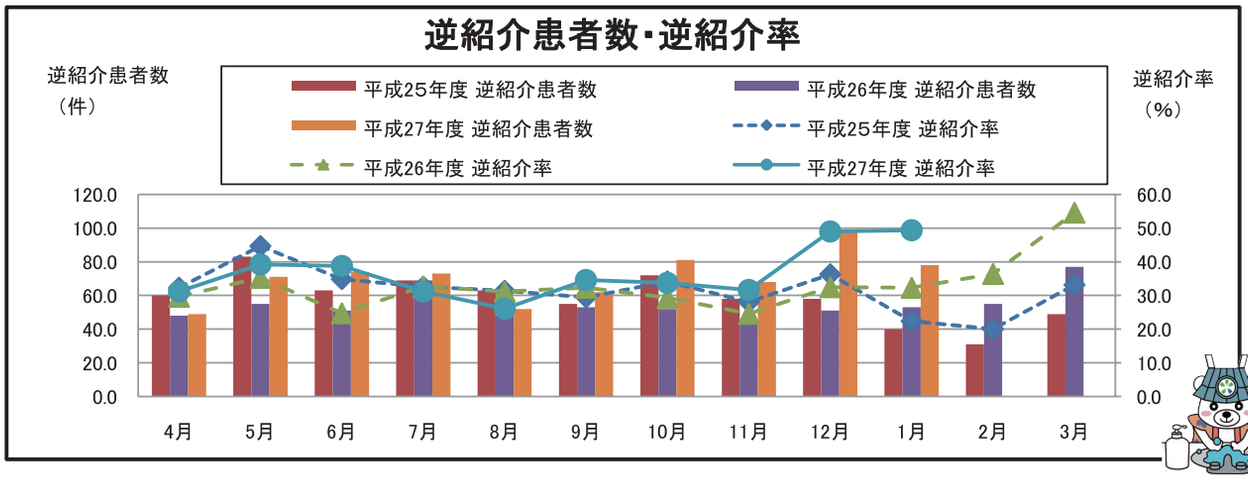
片山内科胃腸科医院	診療時間
片山　耕作 片山　俊介	月～土　午前　８：45～12：00 午後　16：00～18：00
住　所　松江市上乃木4-20-26 ＴＥＬ　0852-26-5511	休診　水曜日と土曜日の午後 日曜・祝祭日

地域医療連携室だより　第23号

２０１６年４月

１．紹介患者数・紹介率／逆紹介患者数・逆紹介率の推移





2.退院支援データ　　毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月		
退院支援患者（人）		48人	50人	40人	55人	33人	50人	66人	60人	65人	61人		
退院先	在　宅（人）	7人	16人	14人	17人	12人	14人	23人	18人	19人	15人		
	施　設（人）	2人	4人	3人	1人	0人	1人	1人	1人	1人	1人		
	病　院（人）	2人	0人	2人	1人	0人	3人	2人	2人	4人	0人		

※逆紹介率とは、当院から開業医さんや他の病院へ紹介させて頂いた患者さんの割合です。
逆紹介率＝逆紹介患者数÷初診患者数（休日、夜間の救急患者数を除く。）

外来診療表　お気軽にご相談下さい　平成28年４月１日現在

診療科＼曜日		月	火	水	木	金
呼吸器内科		岩　本(初)	多　田(初)	木　村(初)	門　脇(初)	池　田(初)
		多　田	小　林	岩　本	西　川	木　村
		矢　野	門　脇	池　田	矢　野	小　林
神経内科		中　島	下　山	深　田	足　立	
						毎週 鳥大医師
外　科		伊　藤		目　次		阪　口
						松　居
小児科	発　達 専門外来	久保田 （予約）	齋　田 久保田 （予約）	齋　田 （予約）	久保田 齋　田 （予約）	齋　田 （予約）
				久保田		久保田
	予防接種		（予約）			
特殊外来	肺がん検診	（予約）	（予約）	（予約）	（予約）	（予約）
	睡眠時無 呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)	
	息切れ 外来		呼吸器内科 池田(予約)			
	喘息 アレルギー外来					池　田 （予約）
	咳嗽外来					池　田 （予約）
	禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)	
	アスベスト 外来		小　林 （予約）	木　村 （予約）	門　脇 （予約）	
	嚥下障害 外来		下　山 （予約）			
	神経難病 外来		下　山		足立芳樹	
	筋ジストロフィー 専門外来				下　山 （予約）	
その他	セカンド オピニオン 外来	（予　約）	（予　約）	（予　約）	（予　約）	（予　約）

専門領域

【呼吸器内科】	
矢野　修一	【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他）
池田　敏和	【統括診療部長】呼吸器一般
小林賀奈子	呼吸器一般
木村　雅広	呼吸器一般
門脇　　徹	呼吸器一般
多田　光宏	呼吸器一般
岩本　信一	呼吸器一般
西川恵美子	呼吸器一般
【神経内科】	
中島　健二	【院長】神経内科
足立　芳樹	【臨床研究部長】神経内科
下山　良二	神経内科・リハビリテーション
深田　育代	神経内科
【外科】	
目次　裕之	呼吸器外科・一般外科
伊藤　則正	呼吸器外科・一般外科
阪口　全宏	呼吸器外科・一般外科
【小児科】	
齋田　泰子	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害
久保田智香	発達障害・重度心身障害
【麻酔科】	
西村友紀子	麻酔科領域

診療時間 8:30～17:15

受付時間	8:30～11:30
自動再来受付	8:00～11:30

独立行政法人
国立病院機構
松江医療センター
呼吸器病センター
〒690-8556　松江市上乃木5丁目8番31号
電話（0852）21-6131(代)
医療連携室直通電話（0852）24-7671
医療連携室ＦＡＸ　（0852）24-7661

特殊外来	小児科発達専門外来	診　療　日：毎週月～金曜日　9：00～12：00（要予約） 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
	肺がん検診	診　療　日：毎週月～金曜日　15：00～17：00（要予約） 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。　料金5,400円
	睡眠時無呼吸外来	診　療　日：毎週木曜日　14：00～16：00（要予約） 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診　療　日：毎週火曜日　13：00～15：00（要予約） 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息アレルギー外来	診　療　日：毎週金曜日　9：00～12：00（要予約） 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診　療　日：毎週金曜日　9：00～12：00（要予約） 内容と特色：３週間以上長引く咳（せき）や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診　療　日：毎週木曜日　10：00～12：00（要予約） 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診　療　日：毎週火・水・木曜日　8：30～11：00（要予約） 内容と特色：石綿（アスベスト）曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	嚥下障害外来	診　療　日：毎週火曜日　9：00～12：00　嚥下障害外来（要予約）
	神経難病外来	診　療　日：毎週火・木曜日　9：00～12：00　神経難病外来
	筋ジストロフィー専門外来	診　療　日：毎週木曜日（予約＝指導室まで）9：00～12：00 内容と特色：筋ジス病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院（筋ジスドック）も受け付けています。
	セカンドオピニオン外来	診　療　日：（完全予約制）　紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科（筋ジス）の専門医（医長）が担当いたします。